

# チキトス地方における言語、音楽、テキストの現状に関する人類学的研究

金子 亜美（東京大学大学院）

キーワード：社会化、イエズス会ミッション、リテラシー、文書化、知識

## 報告要旨

現ボリビア多民族国の東部低地に位置するチキトス地方の先住民は、17世紀末から18世紀にかけて、イエズス会主導のもと、キリスト教徒としての生活様式の数々と接触した歴史をもつ。その一つとして、テキストとその読み書きが挙げられる。イエズス会宣教師は、当地の共通語チキト語を文字化・文法化して、聖書や典礼書など、キリスト教の教義的な知識を伝達する数々のテキストを生産した。一部の先住民も、彼ら自身が信徒として唱える儀礼的発話「説教」の原稿や、人々が日々歌う聖歌を規定する楽譜といったテキストの読み書きを習得した。イエズス会追放後も、これら原稿や楽譜は複写され続け、今日までその一部が継承されている。

本発表では、こうしたテキストが今日実際にどのように使用されているのかに着目した。本来、儀礼的行為に関するテキストが、その意味論的意味を通して儀礼的行為そのものを方向付ける規範として働くとするならば、今日のチキトスの人々にとって、説教の原稿や楽譜はそのように機能してはいない。というのも、人々はこれらテキストに記されているチキト語の意味をわからないままに説教し、あるいは楽譜が読めないままに演奏する、という事態が生じているためだ。つまるところ、テキストに記されたチキト語や音符といった記号は、もはや、解読され典拠されるべき規範として用いられてはいないのである。それならば、チキトスの人々にとってテキストとは何なのか。意味論的意味が問題にならないにもかかわらず、彼らがテキストを用い続けるのはなぜか。テキストは、彼らにとって記号の意味論的意味を超えたいかなる意味をもつのか。本発表では、以上の問いに、発表者が行なった2年間の人類学的現地調査に基づいて考察した。

〔主要参考文献〕

Salomon, Frank and Mercedes Niño-Murcia

2011 *The Lettered Mountain: A Peruvian Village's Way with Writing*. Durham, Duke University Press.

Schieffelin, Bambi B.

2000 *Introducing Kaluli Literacy: A Chronology of Influences*. In Kroskrity, Paul (ed.) *Regimes of Language*. Santa Fe, New Mexico: School of American Research Press.